

健全育成委員会 活動報告

編集・発行 秋田県高等学校PTA連合会 事務局 / 秋田市山王中島町1-1 秋田県生涯学習センター5F Tel. 018 (863) 6681 2019年2月



東北地区高P連 平成30年度 健全育成委員

- | | | |
|------|-----|------------------------------|
| 委員長 | 秋田県 | 石嶋 勝比古 (秋田県高P連会長 秋田県立能代工業高校) |
| 副委員長 | 秋田県 | 舘岡 正人 (秋田県聖霊女子短大附属高校 佐藤 照男) |
| 副委員長 | 岩手県 | 橋本 光幸 (岩手県立平舘高校 永山 信) |
| 委員 | 青森県 | 開米 恵 (青森県立木造高校 長谷川 孝樹) |
| 委員 | 宮城県 | 本郷 輝朗 (宮城県古川工業高校 齋 康浩) |
| 委員 | 山形県 | 桐原 孝幸 (山形県立北村山高校 杉沼 智) |
| 委員 | 福島県 | 三瓶 亜記子 (福島県立本宮高校 和合 亮一) |
- () は担当校及び担当教諭

割れ窓

東北地区高P連健全育成委員長 石嶋 勝比古



ある時、子どもがボール遊びをしていると誤ってよその窓ガラスを割ってしまった。ひどく怒られると思い誰にも言えず、数日もがき悩んだ末に親へ打ち明けた。すると親は優しく抱きしめ一緒に被害者宅を訪問して平身低頭お詫びした。ガラスを割られた家主は快く謝罪を受け入れ、逆にその子の勇気と素直な心を褒めてくれた。普段の親子関係や地域との繋がりが良い場合には、このような結末になるのでしょうか。

ところで、「割れ窓理論」をご存じでしょうか。「窓ガラスを割れたままにしておくと、その建物は十分に管理されていないと思われ、ゴミが捨てられ、やがて地域の環境が悪化し、凶悪な犯罪が多発するようになる。」という環境犯罪理論です。米国ニューヨークではジュリアーニ市長がこの理論を応用し、地下鉄の落書きなどを徹底的に取り締まった結

果、殺人、強盗などの犯罪が大幅に減少し、治安回復に劇的な成果をあげたようです。

さて、社会情勢の変化に応じて青少年を取り巻く環境も次々と姿を変えていくものです。健全育成という立場から保護者に求められるのは、「割れ窓理論」の実践です。今、子ども達が置かれている状況をしっかり把握し、社会を構築している環境という無数の窓を見渡すことで、割れた窓ガラスに目を向け、これ以上被害が広がらないよう速やかに修理することが求められています。たとえば、薬物乱用、自転車事故、SNSトラブル、いじめ問題など、汚いものや危ないもの、あるいは怖いものから目をそらさず、捨てられているゴミを拾い集めるように、小さなことをそれぞれの立場で実践する。さらにそれらを広め合うことで、子ども達を取り巻く環境を浄化しなければなりません。



各県の委員長から一言



青森県



絆

青森県高P連健全育成委員長 開米 恵

絆という言葉は、古くから動物をつなぐ綱など、よい意味はありませんでしたが、現在では人と人を結びつき、支え合い、助け合いという意味で使われています。言葉は時代と共に変化しますが、親子の関係、地域との繋がりは変化させることなく受け継いで行かなければならない。そのためには挨拶が重要ではないかと思えます。「おはよう」、「ありがとう」、「ごめんなさい」、「おかえり・ただいま」、「おやすみ」、この一言の挨拶で人は笑顔になることができます。人との絆を結び、繋がりに感謝し、支え合い、助け合うという気持ちと笑顔を忘れずに成長させていくことが親としての務めであると再確認させて頂きました。このような機会を与えて頂かなければ、絆について改めて考えることもなく過ぎておりました。関係者各位に感謝申し上げます。



◀運動会
大鍋で生徒を応援



◀元気ある挨拶が響きます

岩手県



創立70周年を迎え

岩手県高P連健全育成委員長 橋本 光幸

去る10月13日に平館高校創立70周年記念事業が実施されました。その際、テレビ等でも活躍されている俳人の夏井いつき先生を迎え記念講演が行われ、最後は会場全員参加による俳句大会で大いに盛り上がりました。先生が短い時間で引き出す生徒たちの若い感性は会場を歓声に変え、その姿に感動してしまいました。

平館高校は地域の熱い思いにより創立し、多くの卒業生が巣立ち多方面で活躍しています。その思いを引き継ぐ在校生は、今も変わらず保護者や地域、先生方の沢山の愛情をうけ日々成長し、次代を築いていくことを願わずにはいられません。

次代を築く生徒らに様々なチャレンジを与え、それを乗り越えさせる道標となるよう、これからも精進が必要であると改めて考えさせられた有意義な1日でありました。



◀式典の様子

宮城県



対話

宮城県高P連健全育成委員長 本郷 輝朗

10年以上続く本校の健全育成委員会事業「古工フリートーキング」が12月12日に開催されました。本年のテーマは「ここだけの話」とし他所では一切他言しないという約束で、父兄代表2名に生徒1年生から3年生が10名程度の対話で進められました。

詳しい話は他言無用の約束で書けませんが、今を生きる生徒たちの悩みや興味が見て取れて大変楽しい時間を過ごさせていただきました。自分自身の高校生時代を思い出しながら自分の子以外の高校生とゆっくり話せる機会が我々親にも新たな気づきを与えてくれたと思います。対話を通した世代間の交流はとて楽しく素晴らしい事業です、この様なことを少しずつ積み重ね、相互理解の中で子ども、親、共に成長していきたいと考えています。



◀古工フリートーキング



◀挨拶運動展開中

今年度の健全育成委員会テーマ「絆を育むPTA活動」をもとに、
各県の委員長より日頃の思いなどをお寄せいただきました。



秋
田
県



奉仕の精神で地域とつながる

秋田県高P連健全育成委員長
館岡 正人

創立110年を迎えた本校は、秋田県内唯一のミッションスクールです。生徒たちは建学の精神である「光の子として歩みなさい」の教えの基、さまざまな地域活動を行っています。部活動の一環として合唱部、吹奏楽部、ハンドベル部等のチャリティーコンサートの開催、小さい子供たちを招いてのイベント、クリスマスコンサートなどの活動の他、全校生徒が一斉に学校行事として介護施設、病院等に訪問し奉仕活動をおこなって地域に溶け込み、地域の人たちと触れ合っています。子どもたちを取り巻く社会は、IT機器の発達、普及により人間関係が希薄になっております。しかし、一歩社会に出ますと人間関係を避けて通ることは出来ません。私たちPTAは、未来ある子供たちに「人とのふれあいの大切さ」を共に学ぶ機会を設けていきたいと考えております。



◀保護者も大活躍 聖霊祭

◀クリスマスコンサート

山
形
県



地域と共にできるPTA活動

山形県高P連健全育成委員長
桐原 孝幸

本校のPTA活動の中のひとつとして、学園祭でそばの店を出しております。PTAだけではできないため、朝早くから地元業者やそば打ち会の人に協力して頂きながら手打ちそばを出しています。開店前から子供達・地域の人・先生達までも一緒になって行列をつくり、みんな口を揃えて「おいしい」「もう一杯下さい」と食べてくれます。毎年、200食分準備するのですが昼過ぎには完売してしまいます。このような活動を通して、地域の人・子供達・PTA同士の絆が深まっているのだと思います。地域の人と一緒に活動できる少ない機会なので、これからも大切にしていきたいと思っています。



◀保護者による学園祭のそば屋出店

◀生徒による公園整備

福
島
県



震災から、まもなく8年…

福島県高P連健全育成委員長 三瓶 亜記子

当時、小学生だった子どもたちは、地元で勉強に部活動に頑張っていますが、今だに避難先での生活を送る子どもたちもいます。地元の祭りやイベントを通して地域の子供達と絆を深めています。そのため、地元に残って働きたいという生徒が数多くいます。頑張っている大人たちを見て、地元を盛り上げたいと思う子どもたちが育ちました。

福島県では「4+1ない運動」も継続して活動しています。高校生は、1、免許を取らない、2、車を持たない、3、運転をしない、4、乗せてもらわない、プラス、保護者は、子どもの要求に負けない。今後も継続して、呼びかけていきたいと思っております。

登校時一声運動、マナーアップ運動の成果であるのか、本宮高校生は挨拶が素晴らしいと地域の方々に褒められるようになりました。地元で愛され、貢献する気持ちを持つ生徒を育てていきたいと思っております。



◀「もみや秋祭り」本宮高PTAも協力

平成30年度 「登校時一声運動・マナーアップ運動」 取組状況

アンケート結果より

今年度の「登校時一声運動・マナーアップ運動」実施概況をまとめました。東北6県の各学校からの実施報告を、それぞれの県の担当校に取りまとめていただきました。各校及び各県担当校の先生方にはお忙しいところご協力いただき感謝申し上げます。

1 実施校

	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島	H30	H29	H28
実施報告校数	55	63	63	63	49	67	360	361	374
対象学校数	86	66	66	81	50	81	430	429	450
実施報告率 (%)	64.0	95.5	95.5	77.8	98.0	82.7	83.7	84.1	83.1

2 実施日数

1～2日	19	39	12	34	15	43	162	150	179
3～4日	22	12	18	22	17	13	104	108	106
5～6日	7	7	10	6	12	7	49	56	50
通年・その他	7	5	23	1	5	4	45	36	33

3 主な実施場所

校門・昇降口周辺	51	56	55	54	41	53	310	315	339
校舎内・校地内	11	4	8	8	7	12	50	66	74
通学路・学校周辺	13	19	14	14	26	15	101	103	119
駅・地域等	8	6	8	12	13	12	59	80	78
その他	3	0	1	1	4	0	9	5	6

4 実施時間帯

始業前 15～30分	52	55	49	53	43	57	309	287	309
始業前後 60分程度	2	5	13	5	4	7	36	48	39
下校時にも実施	9	0	3	4	6	3	25	23	33
その他	3	3	5	4	3	1	19	24	20

5 参加人数等

延べ人数	2,262	1,290	1,125	937	1,207	907	7,728	6,568	6,768
1日あたりの人数	7.0	6.2	6.4	7.2	7.0	7.5	6.9	6.4	6.7

6 その他の協力者の参加（複数回答可）

生徒・生徒会・教職員	34	43	40	20	38	36	211	211	218
教職員のみ	22	21	21	23	10	29	126	164	183
地域・近隣高校・関係機関	1	4	5	2	3	6	21	23	32
その他	0	1	3	2	4	1	11	4	5
単独実施（PTAのみ）	0	0	3	5	2	1	11	4	14

実施しての感想

以下は、各県に共通した内容等を中心に整理したものです。

- ・生徒の姿を直接見ることができる。学校生活の一端を見るよい機会である。きちんと挨拶出来ている生徒が多かった。
- ・保護者同士、保護者と先生方、保護者と生徒とのコミュニケーションの機会。情報交換の場。
- ・生徒の健全育成のための活動であるが、教職員と保護者、生徒の繋がりを深める意味でも大事な活動であると思う。
- ・保護者の方にとっても忙しい時間帯にもかかわらず、生徒の顔を見るのを楽しみにしてくださる。毎回必ず協力してくださる方が多い。管理職も毎日挨拶運動に参加していただいた。

等の感想が多かったです。

その一方で、

- ・仕事の都合もあり、なかなか保護者の協力が得られない。
- ・できるだけ多く回数を実施したいがなかなか人が集まらない。
- ・始業前は保護者の出勤時間でもあり協力しにくい人もいるが、協力してくれる保護者もお礼感謝したい。

という、実施に当たっての難しさが今年も寄せられています。

また、学校単独から地域と連携して実施する動きも見えます。地域全体で子どもを育むとともに、そこには高校生は小中学生の見本となってもらいたいという期待があります。

- ・PTA会員、生徒会執行部、地域の警察署の方や地域住民の方々との協力で行われている。明るい地域作りにつながっている。
- ・一つの交差点に保護者・生徒・教員のグループで実施している。保護者には蛍光色のジャンパーを着てもらい活動している。本校生徒だけでなく周りの高校生、小学生にも声かけしている。住民の方々からも挨拶をいただき、良い活動だと理解されている。
- ・本校の向かいには小学校、すぐ近くに中学校があるため登校時間帯は多くの児童・生徒が通学路を通るため朝の街頭指導で、小中学校との連携ができないものかとPTA会長を中心に役員で検討を進めている。

最後に、

- ・イヤホン装着の生徒が若干見られた。
- ・スマホしながら挨拶しても答えない生徒もいた。

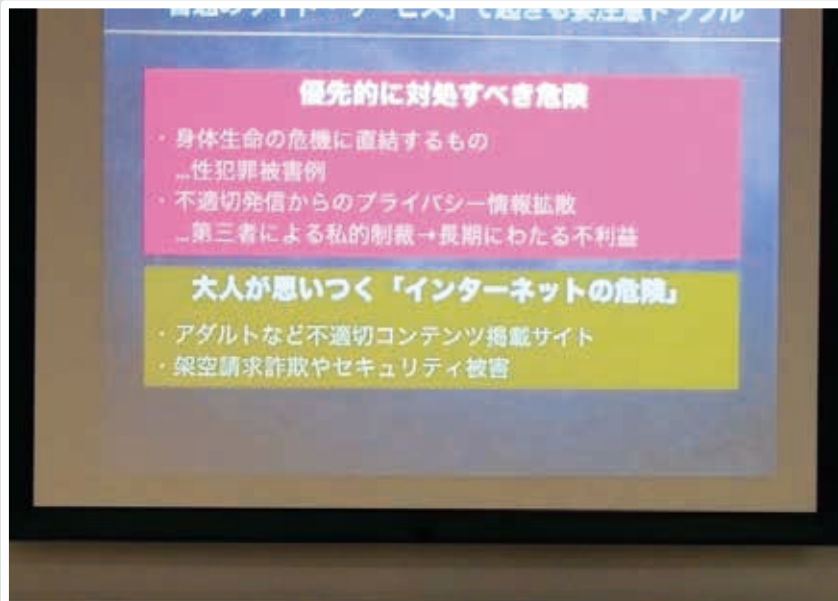
という感想が少なからずありました。



第2回 健全育成委員会より



秋田県教育庁生涯学習課
社会教育主事 森川 勝栄 氏



9月に開催された第2回委員会では、子どもたちをインターネットによる有害情報やトラブル等から守り、健全に利用できることについての研修を行いました。講師は、秋田県教育庁生涯学習課社会教育主事の森川勝栄氏です。

社会に対して広く発信したり受信したりしてメディア活用されているインターネットは、一方で、利用の低年齢化や長時間化の問題、さらには「ネットいじめ」や犯罪等、様々なトラブルに巻き込まれる危険も問題視されています。加えて、保護者の多くは、社会人になってパソコンの使い方を覚えた世代であり、インターネットは利用しているが技術面には疎く、漠然とした不安を感じている方も少なくありません。

秋田県では、県職員が県内の学校などに出向き、それぞれの専門分野の啓発を図る講座「出前講座」を行っています。今回、森川氏からは、その一つである「大人が支える！インターネットセーフティ」をもとに、秋田県の取り組みや子どもたちのインターネット利用の今、そして親としての関わり方などをお話いただきました。

「子どもたちのルールづくりは、自分たちが困っていることからスタートすべき。子どもたちの使い方に即し寄り添ったものでなければ、いくら真っ当なルールであったとしても上手くいかないことが多い」「子どもの成長過程において必要な時期に必要なことに関わらせながら、少しずつ擦り傷を付けながら成長していく経験が大事である」「何かあったときに対処できる力、最終的には自分の責任で使いこなす自覚を身に付けさせたい」「ネット利用について、基本的なことを押さえ方向を合わせることができたら、具体的な仕組みづくりは、各家庭や学校、地域で考えていける。持続可能な取り組みをしていくための学びの循環も大事になってくる」等々。一つ一つが納得のいくものでした。

ご自身も高校生の子どものお親で、現職の前は高校教員であった森川氏。お話を伺って、共感できることが多く、漠然とした不安といったものを整理することができました。家庭での取り組みや親としての関わり方などに励ましをいただいた有意義な研修でした。



第3回 健全育成委員会より

第3回委員会の研修講師は村岡 昇様でした。牧師のお仕事はもとより、地区保護司や人権擁護委員、秋田刑務所教諭師、篤志面接委員、少年保護育成委員など多方面にわたり活躍されております。平成23年度～28年度には秋田県高P連副会長を歴任。

講話は『ココロを育む』と題して、これまで関わられた子ども達の「その時」から「今」に至るまでのことを中心にしたお話で、共感することが多く人とのつながり、絆といったことも考えさせられました。

今回、村岡様からご寄稿いただきました。

自分を変える

緑の牧場教会大館チャペル 牧師 村岡 昇

ロシアの文豪トルストイは「人は世界を変えたいと思うが、自分を変えたいとは思わない」という名言を残しました。もしこれを私たちにあてはめるなら「親と教師は子どもを変えたいと思うが、自分を変えたいとは思わない」となるのでしょうか。アメリカ・ロサンゼルス出身のドロシー・ロー・ノルト博士は、「子どもは親を手本にして育ちます。毎日の生活での親の姿こそが、子どもに最も影響力を持つのです。そのことを、詩『子は親の鏡』で表現したかったのです」と言っています。子どもは、大人と社会を映す鏡です。学校でのいじめ、不登校、ひきこもり、心の病、そして自死（警視庁の統計によると2016年、320人の小中高校生が自死で亡くなっています。小学生12人、中学生93人、高校生215人。3分の2は男子でした。）は、ゆがんだ価値観への警告です。

私は、これまで様々な境遇の子どもたちと関わってきました。親に捨てられた子ども、母子家庭・父子家庭の子ども、虐待された子ども、またごく普通の子どもや、裕福な家庭で良い子と言われながら育った子たちです。そうした小中高校生たちを見ながら、今の子どものマイナス面として3つ特徴があると思います。それは「自尊感情が低く、自分の気持ち（感情）をうまく表現できず、将来に夢をもてない」ことです。先進国の中で、日本の子どもの自尊感情は極端に低いことが、「高校生の心と体の健康に関する調査」（財団法人日本青少年研究所）で明らかになっています。その結果自分や友人を大切にできません。また気持ちの伝え方がわからず、我慢していたものが突然さけるかたちで爆発します。表面的なつきあいはできても、信頼関係を築いていく「心と心のコミュニケーション」が苦手です。さらに模範となる大人たち（ヒーロー）がいがないため、将来に対する夢や目標をもてずに仮想世界（ゲームやアニメ等）にひきこもりやすくなっています。

ある日、不登校の子どもを持つ母親Sさんが相談に来られ、その第一声は「息子に説教してください」でした。これまで登校をぐずる息子を怒鳴りつけ、無理やり引きずって学校へ連れていったこともありました。「学校に行かないなんて、わがままだ。学校の先生に申し訳ない。近所に恥ずかしい」と叫ぶSさんの話を聞き、親としての怒りや悲しみを共感して受け止めました。すると何度かお会いしているうちに、Sさんは自分の問題に気付き始めました。「私は今まで子どもを変えることばかり考えていましたが、親がまず変わらなければならないのですね。私はここで自分の気持ちを受け止めてもらい、とても心が楽になりました。私も同じように息子をそのまま受け止めよう思います。」

Sさんはその日から子どもへの態度を変えました。怒鳴ることをやめ、子どもの話に耳を傾けたのです。すると息子は学校に行けなくなった理由や気持ちを話し始めたそうです。残念ながら学校を中退することになりましたが、その後仕事に就き、社会人として自立しています。Sさんは自分が受け止められる体験を通して、息子を受け止めることができるようになりました。人は人を通して癒され、また強められていくのです。

インドの諺に「心が変わると、態度が変わる。態度が変わると、行動が変わる。行動が変わると、習慣が変わる。習慣が変わると、人格が変わる。人格が変わると、運命が変わる。運命が変わると、人生が変わる」とあります。子どもは理念や理想から学ぶのではなく、それを実践している人を見、聞き、体験し、心で感じ取ることで、はじめて自分のものとして学ぶことができます。家庭、学校、地域がそのことを真摯に受け止め、「自分を変える」一歩を踏み出すなら、子ども達への影響力をもつことができます。



編集後記

東北地区高P連健全育成委員会のリーフレットを作成するに当たり、今年度は「登校時一声運動・マナーアップ運動」集計結果に加え「各県健全育成委員長のひと言」と「委員会での研修」をもとに編集しました。

3回開催された委員会。毎回、それぞれの県や学校で行われている活動について活発な意見交換がなされました。当たり前に行われていることでも、所が変われば必ずしも当たり前でなくなることがあります。地道ながら継続して長年取り組まれていることや、その学校PTAならではの取り組み等々、限られた時間でしたが気づきの多い有意義な時間を共有しました。紙面にて東北地区高P連健全育成委員会活動のほんの一部でもお伝え出来れば幸いです。

各県の学校PTAの保護者や先生方には、お忙しい中「一声運動」の実施及び報告などでお世話になりました。ありがとうございます。

平成30年度東北地区高P連健全育成委員一同